

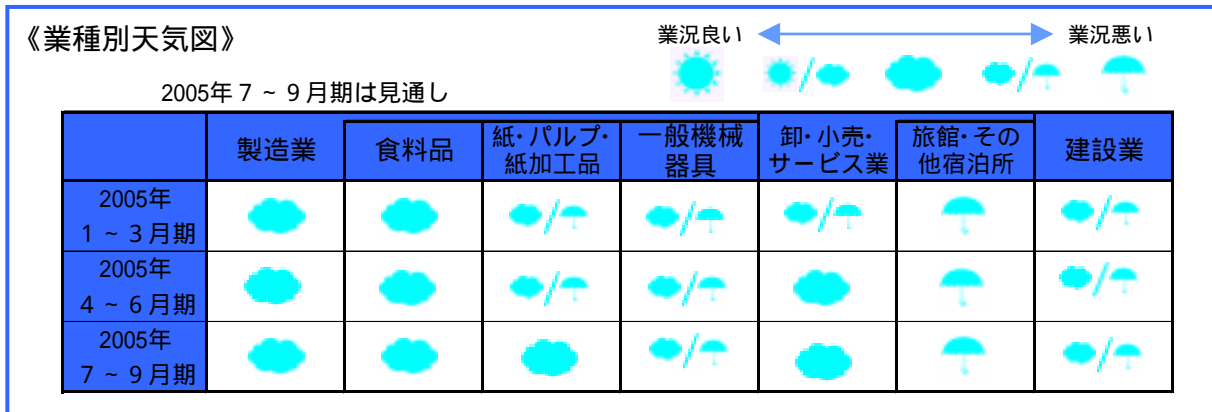
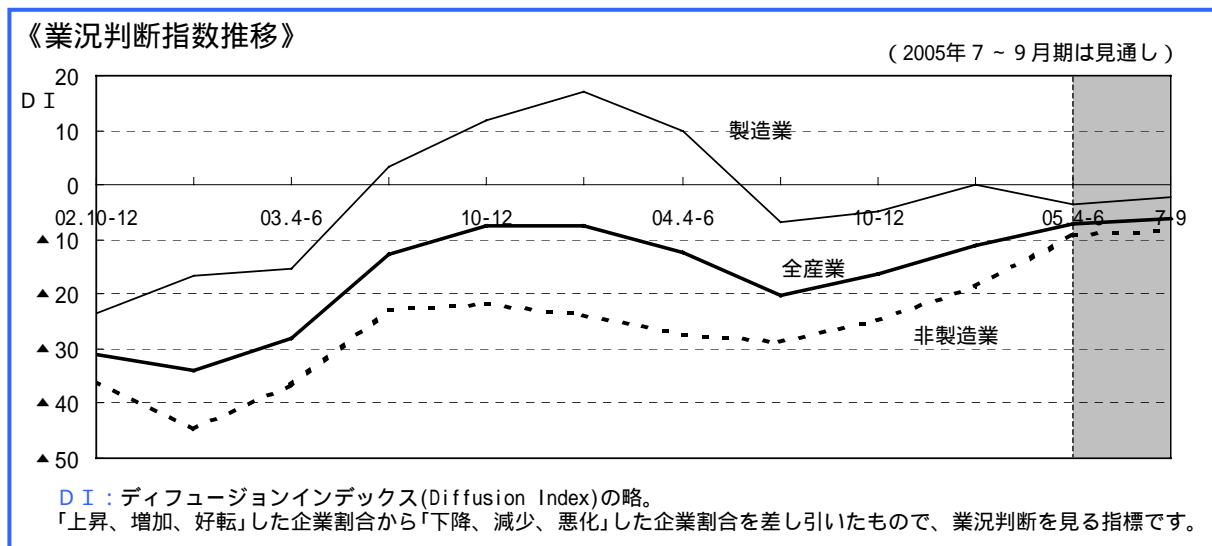
静岡県東部地域企業経営動向調査
2005年4～6月期実績
2005年7～9月期見通し

財団法人 企業経営研究所

〒411-0036 三島市一番町15-26
TEL 055-981-3033 FAX 055-981-5888
URL : http://www.srgi.or.jp

業況概要(自社) ～ 製造業は若干低下、非製造業は業況感改善傾向が続く ～

静岡県東部地域における2005年4～6月期の業況判断DIは、全産業で▲7.1(前期▲11.2)となり、全体では引続き改善傾向にある。業種別では、製造業は▲3.4(同0.0)と若干ながら再びマイナス判断になった。一方、非製造業は卸・小売・サービス業での大幅な改善により▲9.3(同▲18.6)と大きく改善した。経営上の問題点は「受注・売上の停滞・減少」が最も多いが、製造業では「原材料・仕入商品の値上がり」が最も多く、原油等の原材料価格の高騰傾向が反映された結果となった。



《調査の概要》

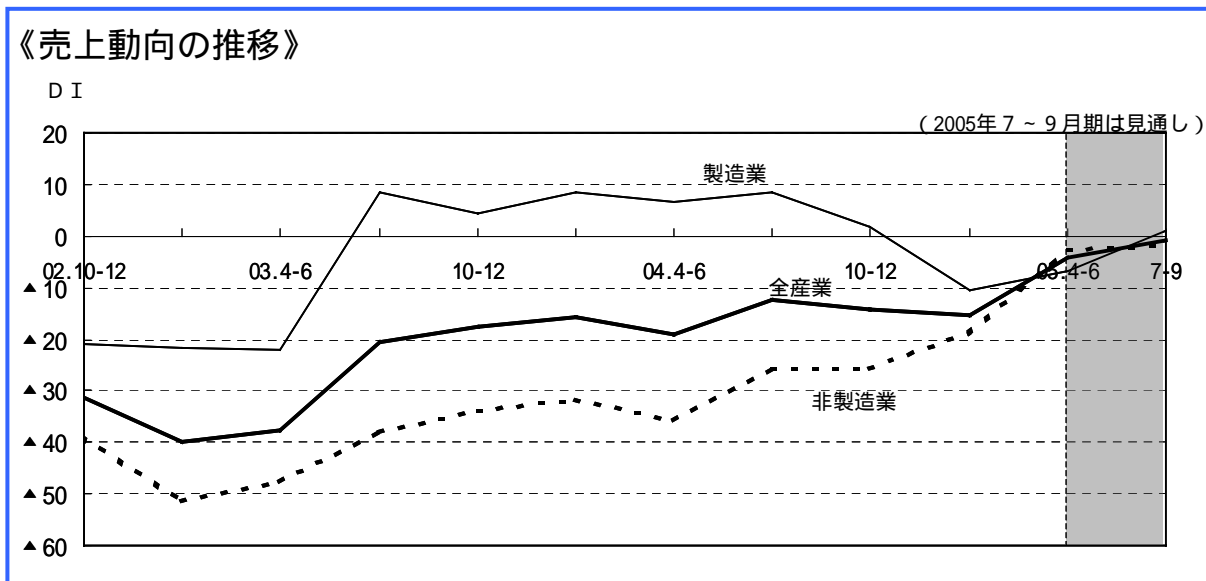
<p>1. 調査目的 静岡県東部地域(富士川以东)の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握</p> <p>2. 調査対象企業 静岡県東部地域に立地する企業 840社 回答数239(回答率28.5%) 業種別企業数は4ページ下段図表を参照</p> <p>3. 調査方法 当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査</p>	<p>4. 調査対象期間 実績:2005年4～6月期 / 見通し:2005年7～9月期</p> <p>5. 調査時点 2005年6月</p> <p>おことわり 今回調査より調査企業数を拡大したため、回答いただいた企業数や構成が前期までとは若干変化しています。従ってDI値等の変化には、本来反映される企業活動変化の影響だけでなく、回答企業の数や構成の変化による影響が含まれている可能性があります。あらかじめご留意ください。</p>
---	--

売上動向

製造業は若干の改善、非製造業は大幅改善となり製造業を上回る

2005年4～6月期の全産業の売上動向DIは▲4.2(前期▲15.4)で、前期比で大幅な改善となった。製造業は▲6.8(同▲10.5)で、食料品は低下したが、金属製品・一般機械器具等で上昇したことから若干改善された。一方、非製造業は▲2.7(同▲18.6)と大幅に改善した。その他の小売・サービス業等で、大・中規模企業(従業員数30人以上)を中心に判断が上昇した影響が大きい。旅館・その他宿泊所や建設業では横ばいで推移している。

2005年7～9月期(見通し)は、全産業で▲0.8となり、緩やかではあるものの引続き改善を見込んでいる。製造業で1.1、非製造業でも▲2.0とそれぞれ上昇を予想しており、来期への期待感がうかがえる。

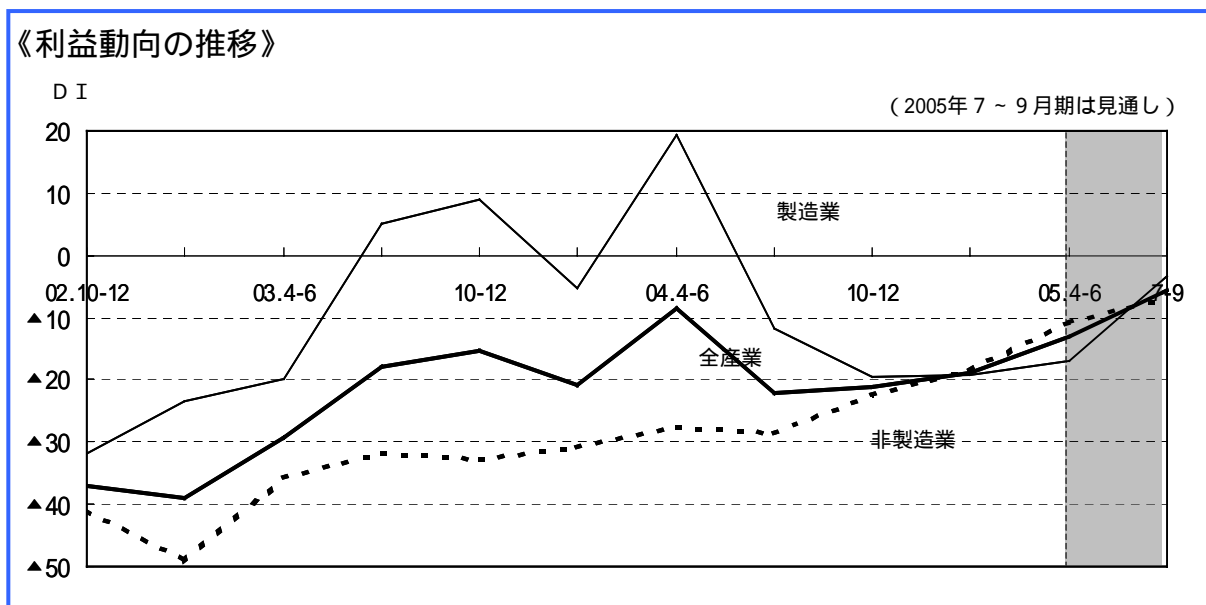


利益動向

製造業は若干改善、その他小売・サービス業での判断が大幅上昇

2005年4～6月期の全産業の利益動向DIは▲13.0(前期▲18.9)で、マイナス判断ながら引続き改善傾向にある。製造業は食料品、パルプ・紙・紙加工品、一般機械器具で改善した結果▲17.0(同▲19.3)となった。一方、非製造業はその他小売・サービス業等で判断が大幅に上昇した結果▲10.7(同▲18.6)まで改善した。

2005年7～9月期(見通し)は、全産業で▲5.6とさらなる回復を見込んでいる。内訳では製造業が▲3.4、非製造業が▲6.8となっており、製造業でより顕著な回復への期待感が示されている。

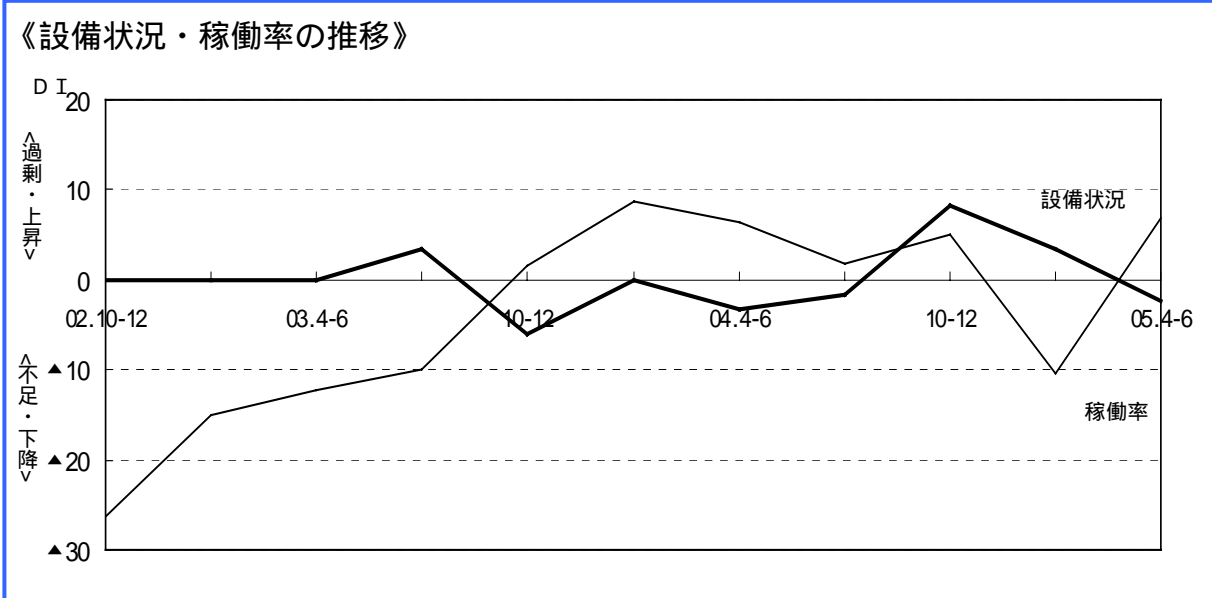


設備状況・稼働率
(製造業)

設備は一転して若干「不足」、稼働率も大幅改善で「上昇」へ

2005年4～6月期の設備状況DIは▲2.3(前期3.5)となり、前期から一転して、若干「不足」の判断となった。食料品、一般機械器具が「不足」に転じ、金属製品、その他製造で引き続き「不足」状態となっているが、パルプ・紙・紙加工品は「過剰」状態が続いている。

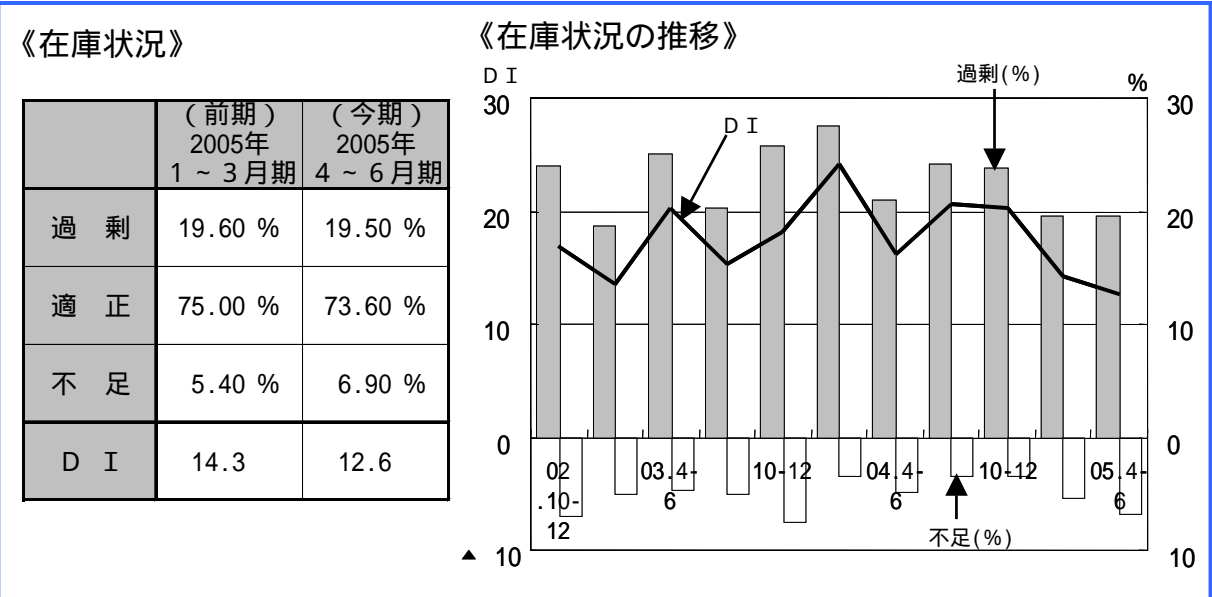
一方、今期の稼働率DIは6.8(同▲10.5)で、前期比大幅に改善し「上昇」判断に転じた。金属製品、一般機械器具が「上昇」に転じた他、食料品でも「適正」=ゼロ状態にまで改善している。



在庫状況
(製造業)

DIは低下傾向続く、全体の約4分の3の企業は「適正」と判断

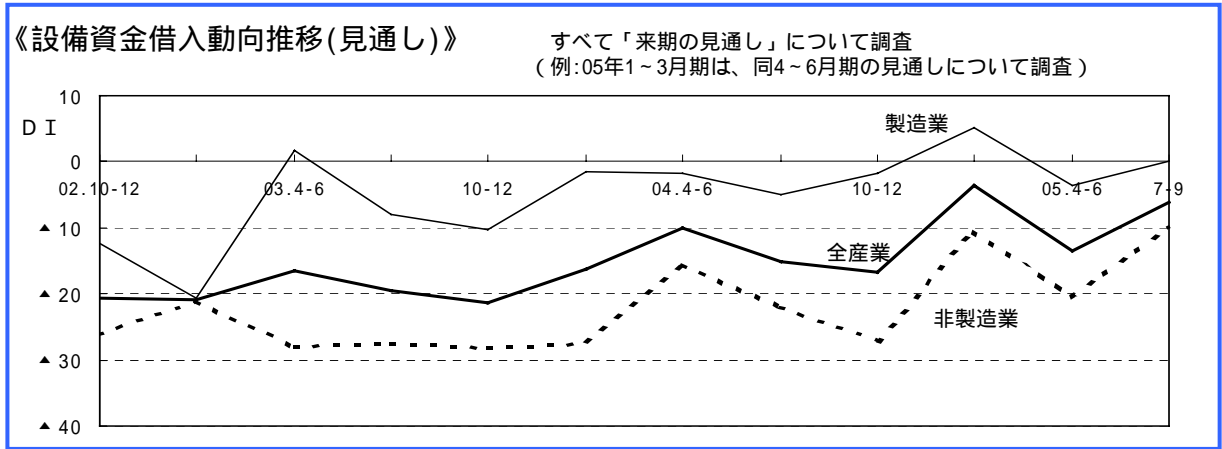
2005年4～6月期の在庫状況(製造業)は、回答企業全体の約4分の3が「適正」と判断した。また「過剰」と回答した企業の比率はほぼ横ばい、同じく「不足」の比率は若干増加した。この結果、在庫状況DIは、12.6(前期14.3)と低下、近年では最も低い値を示しており、在庫の拡大は抑制されているとみられる。業種別では、食料品で在庫不足感が低下、パルプ・紙・紙加工品で過剰感が高まっているが、金属製品、その他製造では過剰感がやや緩和されている。



**設備資金借入
動向(来期)**

製造業は借入増減が均衡、非製造業も借入金抑制の動きは緩和

2005年7～9月期(来期)の全産業の設備資金借入動向(見通し)DIは▲6.1(前期▲13.6)で、前期に引き続きマイナス(借入金の減少傾向)であるが、DI値が上昇したことから、借入金抑制の動きは緩やかになっているとみられる。製造業は0.0(同▲3.5)と増減が均衡し、金属製品・一般機械器具では上昇。一方、非製造業も▲9.8(同▲20.5)と上昇し、借入金抑制の動きは緩和されている。旅館・その他宿泊所はDI値が低下したが、その他小売・サービス業等、建設業では上昇となった。



経営上の問題点

指摘項目・順位とも前期と変わらず

上位8項目の内容・順位ともすべて前期と同じで、指摘企業の割合も全体として大きな変化はない。ただし、業種別では傾向がやや異なり、製造業では「原材料・仕入商品の値上がり」が最も多く、原油等の原材料価格の高騰傾向が反映された結果となった。一方、卸・小売・サービス業では「受注・売上の停滞・減少」「生産・販売能力の不足」「人材の育成」が上位を占めている。建設業では「受注・売上の停滞・減少」と「過当競争・製品安」に回答が集中する傾向が顕著にみられる。

《経営上の問題点(上位8項目)》 (社、%)

問題点	04年10～12月期		05年1～3月期		05年4～6月期		順位 変動
	企業	割合	企業	割合	企業	割合	
1. 受注・売上の停滞・減少	89	61.0	78	54.5	125	52.7	
2. 過当競争・製品安	64	43.8	60	42.0	99	41.8	
3. 人材の育成	43	29.5	53	37.1	87	36.7	
4. 原材料・仕入商品の値上がり	51	34.9	44	30.8	77	32.5	
5. 生産・販売能力の不足	33	22.6	33	23.1	66	27.8	
6. 従業員の高齢化	27	18.5	32	22.4	48	20.3	
7. 人件費の増加	22	15.1	23	16.1	33	13.9	
8. その他経費の増加	20	13.7	20	14.0	26	11.0	

《業種別：回答企業数およびDI》

設備資金は来期の見通し、それ以外は今期実績

業種	企業数	売上動向	利益動向	設備状況	稼働率	在庫状況	設備資金
食料品	11	▲27.3	▲27.3	▲9.1	0.0	▲18.2	▲9.1
パルプ・紙・紙加工品	14	▲28.6	▲21.4	35.7	▲21.4	42.9	▲7.1
金属製品	13	7.7	▲30.8	▲7.7	30.8	15.4	23.1
一般機械器具	11	0.0	▲18.2	▲18.2	9.1	20.0	9.1
その他製造業	39	0.0	▲7.7	▲7.7	10.3	7.7	▲5.3
製造業計	88	▲6.8	▲17.0	▲2.3	6.8	12.6	0.0
旅館・その他宿泊所	17	▲29.4	▲17.6	-	-	-	▲11.8
その他小売・サービス業等	90	11.4	0.0	-	-	-	0.0
卸・小売・サービス業計	107	4.8	▲2.8	-	-	-	▲2.0
建設業計	44	▲20.5	▲30.2	-	-	-	▲29.3
非製造業計	151	▲2.7	▲10.7	-	-	-	▲9.8